



2019年8月26日

先週の回顧

ブラジル・レアルは、対円、対米ドルともに下落しました。また、2年国債金利は上昇しました。

中国が対米報復関税を発表し、これに対してトランプ米国大統領が対抗姿勢を示したことで、米中貿易摩擦の激化への懸念が強まりました。世界的なリスク回避の動きが進んだことで新興国通貨全般は売られ、ブラジル・レアルは下落しました。

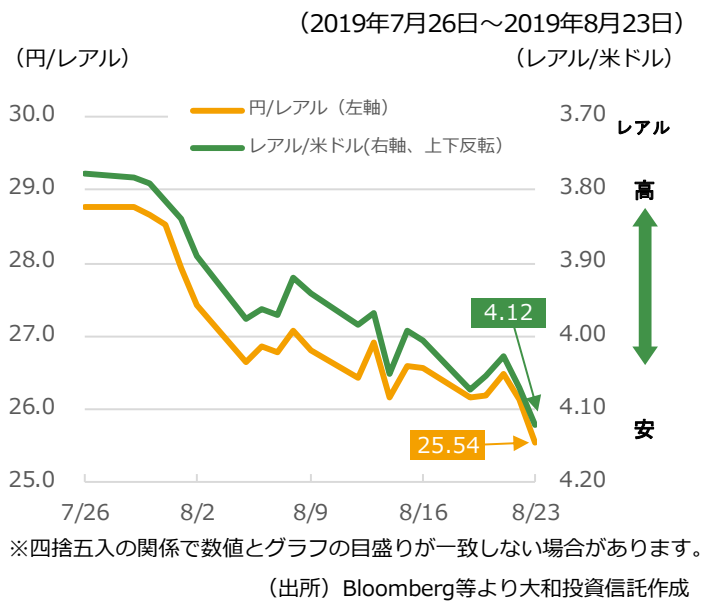
経済指標に関しては、8月のIPCA-15インフレ率などが発表されました。IPCA-15インフレ率は前月から低下し、市場予想も下回る内容となりましたが、材料視されませんでした。

今週の見通し

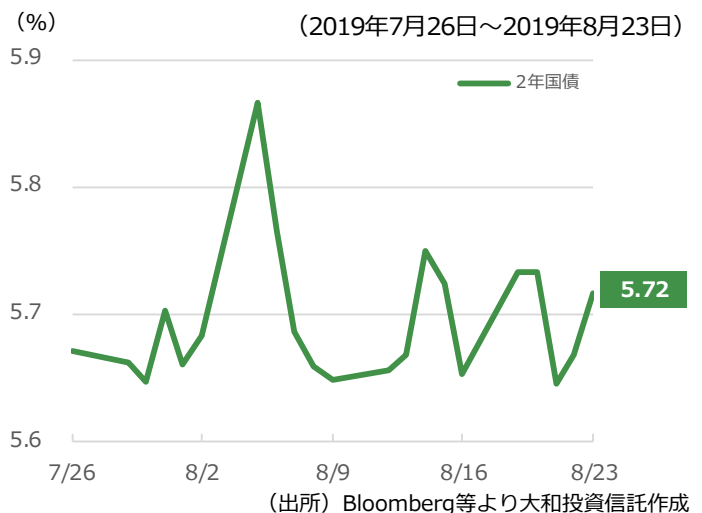
今週は第2四半期GDP（国内総生産）成長率などの経済指標の発表が予定されています。市場予想では小幅なプラス成長が予想されていますが、先行指数である経済活動指数は第2四半期を通してマイナスとなっており、ブラジル経済のテクニカルリセッション入りを示唆していることから、注意が必要です。

また、足元のアマゾン森林火災への対応を巡って世界中でボルソナロ政権への批判が高まっています。マクロン仏大統領はこのままの状況が続けば、EU（欧州連合）とメルコスール（南米共同市場）との自由貿易協定締結への影響がでると語っているほか、現在EU議会議長国を務めているフィンランドからは、「ブラジル産牛肉の禁輸措置も検討すべき」との声も上がっていることから、アマゾン森林火災を巡る動向にも注意が必要です。

ブラジル・レアル 為替推移



ブラジル 金利推移



当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。